

- 問1 世界の主要国のエネルギー消費と生産に関する統計において、オーストラリアの特徴を説明したものとして、背景や実態を正しく述べているものはどれですか。 (2023年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 石炭の産出量は多いが、国内でのエネルギー需要がそれを上回っているため、自給率は100%を下回っている。 | 2. 豊富な石炭資源などの産出によりエネルギー自給率が極めて高く、一人あたりのエネルギー消費量も多い。 | 3. 広大な国土を移動するための燃料として石油の自給率が極めて高く、エネルギー自給率を押し上げている。 | 4. エネルギー資源を輸出に回すことを優先しているため、国内の一人あたりのエネルギー消費量は抑制されている。 |
|--|---|---|--|
- 問2 オーストラリアが旧宗主国であるイギリスなどヨーロッパ諸国との結びつきから、中国や日本などのアジア諸国との結びつきを強めるようになった背景として、最も適当な説明はどれですか。 (2026年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. イギリスのEC（現在のEU）加盟による関係変化や地理的な近さを背景に、資源や農産物の輸出先として急速に成長するアジア諸国との経済的関係を強化したため。 | 2. アジア諸国との間で関税を撤廃する広大な単一通貨圏が完成し、貿易相手をアジアだけに限定したため。 | 3. ヨーロッパで産業が衰退し、工業製品の輸入元をアフリカや南米へ切り替える必要が生じたため。 | 4. 北アメリカ諸国との貿易摩擦が激化し、すべての貿易品目を食料品のに制限する政策をとったため。 |
|--|--|---|--|
- 問3 かつてオーストラリアは、イギリスなどのヨーロッパ諸国を主な輸出相手として羊毛や小麦を輸出していましたが、近年の貿易構造は大きく変化しました。現在のオーストラリアにおける貿易の動向について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 中国が最大の輸出相手国となり、鉄鉱石や石炭などの鉱産資源が輸出額の多くを占めるようになっている。 | 2. 日本が最大の輸出相手国となり、現在もかつてと同様に羊毛や小麦などの農産物を中心に輸出している。 | 3. アメリカ合衆国が最大の輸出相手国となり、自動車や電子部品などの工業製品の輸出を急激に伸ばしている。 | 4. 東南アジア諸国連合（ASEAN）との貿易が中心となり、米や茶などの食料品の輸出が拡大している。 |
|---|--|--|--|
- 問4 ブラジルからの輸入総額を1975年から2015年まで5年ごとに調査した統計において、5年前と比較して「輸入総額が増加した」時期の正しい組み合わせはどれですか。 (2021年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|----------------------------|
| 1. 1975年～1980年、および2005年～2010年の区間 | 2. 1990年～1995年、および1995年～2000年の区間 | 3. 1980年から1985年、および1990年から1995年の区間 | 4. 1975年から2015年までのすべての5年区間 |
|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|----------------------------|
- 問5 南アメリカのアンデス地方における食文化や農業の特徴を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. アジアから伝来した稲作が中心であり、大規模な灌漑施設を用いて米を生産している。 | 2. 冷涼な高地という環境を活かし、じゃがいもの原産地として多様な品種を生食にしている。 | 3. 降水量の多さを利用して、熱帯特有の作物であるサトウキビを主食として栽培している。 | 4. 広大な平原を利用して、世界最大の輸出量を誇る小麦の単一栽培を行っている。 |
|--|--|---|---|
- 問6 オーストラリアの輸出統計を1960年代から現在にかけて比較すると、かつて最大の輸出相手国であったイギリスの割合が著しく減少し、代わってアジア諸国との貿易が拡大しています。このようにオーストラリアが貿易の軸足をアジア太平洋地域へと移した背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. アジア諸国の工業化に伴い、鉄鉱石や石炭などの資源需要が高まったほか、地理的な近接性が重視されたため | 2. 北米自由貿易協定（NAFTA）の影響で、アメリカ合衆国からアジア経由での輸出を強制されるようになったため | 3. 白豪主義を維持するために、ヨーロッパ諸国との経済的なつながりを意図的に断ち切り、鎖国状態に入ったため | 4. イギリスがEU（欧州連合）の前身組織に加盟したことで、オーストラリア産の羊毛がヨーロッパ全域で禁輸措置を受けたため |
|--|---|---|--|
- 問7 南アメリカ大陸の北端に位置するある国では、輸出総額のうち原油が約67%、石油製品が約30%を占めています。輸出額の合計の約97%がこれら特定の資源に関連した品目に集中しているこの国の名称として正しいものを選びなさい。 (2017年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|----------|-----------|---------|
| 1. チリ | 2. ベネズエラ | 3. アルゼンチン | 4. ブラジル |
|-------|----------|-----------|---------|
- 問8 南アメリカ大陸の西部に位置する、標高4000メートル級の高峰が連なる山脈の名称と、その大陸内の配置について正しく述べているものはどれですか。 (2023年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. ヒマラヤ山脈が大陸の南側に位置し、その北側には広大な平原が広がっている | 2. アルプス山脈が大陸の北側に位置し、その南側には広大な平原が広がっている | 3. アンデス山脈が大陸の西側に位置し、その東側には広大な平野や盆地が広がっている | 4. ロッキーマウンテン山脈が大陸の西側に位置し、その東側には広大な中央平原が広がっている |
|--|--|---|---|
- 問9 中央アメリカの南側に位置し、西を太平洋、東を大西洋に挟まれた広大な陸地があり、その北部にはコロンビア、東部にはブラジルなどの国々が位置しています。この大陸の名称として正しいものを選びなさい。 (2025年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|------------|-----------|--------------|
| 1. 北アメリカ大陸 | 2. 南アメリカ大陸 | 3. アフリカ大陸 | 4. オーストラリア大陸 |
|------------|------------|-----------|--------------|
- 問10 発展途上国の都市部において、農村から仕事や収入を求めて移住した人々が急増したことで形成された、住宅や下水道などの生活基盤が整っておらず、治安や衛生環境が悪い居住地区を何と呼びますか。 (2024年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|-----------|-----------|
| 1. スラム | 2. ファベラ | 3. メガロポリス | 4. タウンシップ |
|--------|---------|-----------|-----------|
- 問11 ブラジルでは大規模な農地の開発によって、貴重な熱帯林が減少しているという課題があります。特に家畜の飼料などとして輸出される大豆の生産拡大がその一因となっていますが、このような状況において、現代の国際社会で求められている「自然環境」と「経済」のあり方として最も適切な説明を選びなさい。 (2023年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 国民の所得を向上させるため、熱帯林の保護よりも農地の拡大と経済成長を最優先する。 | 2. 自然環境を完全に保護することを優先し、農地としての利用や一切の輸出用作物の栽培を禁止する。 | 3. 森林の減少は一時的な現象であるため、特に対策を行わず市場経済の自由に任せる。 | 4. 自然環境を保護しつつ経済的な発展を維持する、「持続可能な開発」による両立を目指す。 |
|---|--|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 豊富な石炭資源などの産出によりエネルギー自給率が極めて高く、一人あたりのエネルギー消費量も多い。	オーストラリアは石炭や天然ガスなどのエネルギー資源が豊富であるため、国内需要を十分に満たした上で輸出に回しており、エネルギー自給率が非常に高いのが特徴です。また、広大な国土での移動や冷房需要、資源採掘産業の影響などにより、国民一人あたりのエネルギー消費量も他の先進国と同様、あるいはそれ以上に多い傾向にあります。石油については、石炭と比較すると自給率は高くありません。
問2	答え 1 イギリスのEC（現在のEU）加盟による関係変化や地理的な近さを背景に、資源や農産物の輸出先として急速に成長するアジア諸国との経済的関係を強化したため。	かつてオーストラリアはイギリスとの貿易が主流でしたが、1970年代にイギリスがEC（ヨーロッパ共同体）に加盟したことで、ヨーロッパ向け貿易の優遇制度が失われました。これを機に、地理的に近く鉱物資源や農産物の需要が高まっていた日本や中国などのアジア諸国との貿易・経済的結びつきを急速に強化することとなりました。
問3	答え 1 中国が最大の輸出相手国となり、鉄鉱石や石炭などの鉱産資源が輸出額の多くを占めるようになっている。	オーストラリアは、歴史的に関係の深かったイギリスとの貿易から、地理的に近く経済成長の著しいアジア諸国との貿易へとシフトしました。特に中国が最大の貿易相手国となっており、品目もかつての羊毛や小麦といった農産物から、中国の工業化を支える鉄鉱石や石炭といった鉱産資源へと主力商品が移り変わっています。この背景には、アジア諸国におけるエネルギー需要や鉄鋼生産の拡大があります。
問4	答え 1 1975年～1980年、および2005年～2010年の区間	ブラジルからの輸入総額が5年前と比較して増加したのは、1975年→80年、1985年→90年、2000年→05年、2005年→10年の合計4度です。1990年から1995年にかけては輸入額が減少（46百億円から37百億円）しており、増加の事例には当てはまりません。
問5	答え 2 冷涼な高地という環境を活かし、じゃがいもの原産地として多様な品種を主食にしている。	アンデス山脈周辺の国々では、高地の厳しい自然環境に対応するため、その土地が原産であるじゃがいもを中心とした食文化が築かれました。地域によって異なる高度や気候に合わせて、数千種類にも及ぶじゃがいもが使い分けられており、アンデス地方の農業と生活を支える基盤となっています。
問6	答え 1 アジア諸国の工業化に伴い、鉄鉱石や石炭などの資源需要が高まったほか、地理的な近接性が重視されたため	オーストラリアはかつて宗主国であるイギリスと密接な貿易関係にありましたが、1970年代にイギリスがEC（欧州共同体）に加盟したことで、イギリスの貿易の関心はヨーロッパ域内へと移りました。一方、同時期に高度経済成長を遂げた日本や、その後に急速な経済発展を見せた中国など、地理的に近いアジア太平洋地域の国々で工業化が加速しました。これにより、鉄鋼生産に不可欠な鉄鉱石やエネルギー資源である石炭の輸出先として、アジア諸国との結びつきが急速に強まりました。
問7	答え 2 ベネズエラ	南アメリカ北部のカリブ海に面したベネズエラは、世界有数の石油埋蔵量を誇る国です。国の収入の大部分を原油や石油製品に依存しており、輸出品目の内訳でもこれらが圧倒的な割合を占めます。一方で、ブラジルは鉄鉱石や大豆、チリは銅、アルゼンチンは牛肉やトウモロコシが主な輸出品目であり、ベネズエラの貿易構造とは異なります。
問8	答え 3 アンデス山脈が大陸の西側に位置し、その東側には広大な平野や盆地が広がっている	南アメリカ大陸の地形は、西部の険しいアンデス山脈と、東部の広大な平原（アマゾン盆地など）によって特徴づけられます。ロッキー山脈は北アメリカ大陸の、ヒマラヤ山脈はアジア（ユーラシア大陸）の、アルプス山脈はヨーロッパの主要な山脈であり、位置関係が異なります。
問9	答え 2 南アメリカ大陸	この大陸は西半球の南部に位置しており、パナマ地峡を経て北アメリカ大陸とつながっています。赤道が通過する北部のコロンビアや、アマゾン川流域を含む広大な面積を持つブラジルなど、多くの国々がこの大陸に含まれます。
問10	答え 1 スラム	発展途上国では、経済発展を背景に農村から都市へと人口が移動する急激な都市化が進みました。しかし、都市側の住宅供給や公共サービスの整備が人口増加のスピードに追いつかないため、生活環境の劣悪な地区が発生します。ブラジルの「ファベラ」のように地域ごとに独自の呼称がある場合もありますが、一般的にはスラムと呼ばれます。
問11	答え 4 自然環境を保護しつつ経済的な発展を維持する、「持続可能な開発」による両立を目指す。	ブラジルのアマゾン盆地などで進む熱帯林の減少は、地球温暖化や生態系の破壊につながる深刻な環境問題です。一方で、大豆などの輸出はブラジルの経済を支える重要な産業でもあります。そのため、環境を一方的に破壊することも、経済を止めて貧困を放置することも選ばず、将来の世代に資源を残しながら現在の発展を追求する「持続可能な開発」という考え方が不可欠となっています。